

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願ひ申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。
桜の時期がおわり、あっという間につつじが咲き始めました。初夏に向かってどんどん季節がすすんでゆきますね。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

昨年の8月のニュースで、大阪道頓堀の「松竹座」が建物の老朽化に伴い5月に閉館と聞き、とても寂しく思っていたところ、友人に誘われて「御名残四月大歌舞伎」を観に行ってきました。最新のニュースでは、「形を変えて道頓堀で劇場運営を再開すべく、大阪府・市と協議」と聞き、期待していますがどうなることでしょうか。

難波には、江戸時代に起源をもつ五つの芝居小屋「道頓堀五座」（浪花座、中座、角座、朝日座、弁天座）がありました。1980年代から90年代にかけて閉館・建て替えが相次ぎ、最終的に最後まで「中座」が営業を続けていましたが、1999年に閉場したことで、すべての劇場が幕を閉じました。（角座は名称のみ残り移転して営業）

そして、大正時代にモダンな洋式劇場として誕生したのが「松竹座」。五座が消滅した後も道頓堀の芝居文化を守り続けてきました。1997年の新築時には、大正時代の外観を大切に残しつつ、中身は最新設備に。「道頓堀の凱旋門」と呼ばれたネオ・ルネサンス様式の正面の巨大なアーチ（テラコッタ製）は当時のまま活用し、劇場内部やロビー、大理石の装飾などは新しく豪華に造り直したそうです。1997年に新築したのであれば、老朽化するほどではないのでは？と思ったのですが、大正時代の外観部分はずでに100年をこえており、そのメンテナンス技術や費用、劇場の特殊な設備の更新時期であることも理由ではないかということです。

もし取り壊されてしまったら、この景色ももう見られなくなるのだな……と名残惜しさを感じながら眺めていましたが、オープンを待つ人が増えるにつれて、道行く外国人観光客と混ざり合い、劇場前は次第に熱気に包まれていきました。

4月の夜の部の演目は「寺子屋」「五條橋」「河庄」でした。

「五條橋」は中村獅童さんとご子息の陽喜くん（8才）が演じる、弁慶と牛若丸が会う舞踊劇で、とてもかわいらしく微笑ましかったです。

「寺子屋」は、菅丞相（菅原道真）の息子を匿った源造と、主君への忠義のために、我が子の小太郎（7才）を身代わりとして犠牲にした松玉丸夫婦のお話で、小太郎自身もそれを覚悟して死んでいったことが語られます。

「なんて立派な忠義だ」と手放しで感動する人は、今の時代には多くないと思いますが、当時の人たちも、「そこまでしなければならないのか……」「あんなことは現実には御免だね」と、思ったのかもしれない。

1100年前の史実を約300年前の江戸時代の人々が演劇として楽しみ、現代まで語り継がれて、「そんなのおかしい！子供は親の道具じゃない！」と価値観が変化してゆくことや、文化が途切れず継承されてきたことにも、壮大な歴史ロマンを感じました。

朝晩は冷え込むけれど昼間は暑いくらいで、この季節は着るものに困りますね。皆さまもお身体を大切に、心地よい春をお過ごしくださいませ。



道頓堀の凱旋門に早めに到着！



またこの場所で、歌舞伎を観られますように

今月も最後までお読みいただき
ありがとうございました。
来月もよろしくお願ひいたします。